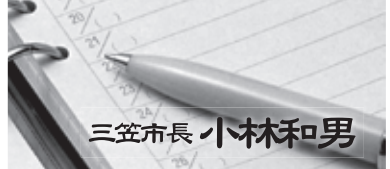


市長室

11月19日記



雪深い北国の人たちが総選挙に期待するものは…

早いもので今年も残り「ひと月」になり、我が家の日めくりカレンダーも残りわずかとなった。

昨日(日曜日)のテレビでは、14日の党首討論で野田総理が「自公が今国会で一部定数削減法案や赤字国債発行法案を可決し、次期通常国会で抜本的な定数削減法案を確約するならば衆議院を16日に解散してもいい」と衝撃的な発言をし、一気に解散が表面化したため、その日のテレビはどの局も「解散」についての特集が組まれていた。

今の季節、北海道は日没が早く、特に天気の良い日は午後4時すぎになると暗闇になってしまう。我が家の前の道路も街灯の明かりに照らされ雨にぬれた

アスファルトを光らせていた。

その後、間もなく、我が家の周り一面がうっすらと雪景色に変わっていた。真っ白い道路に自動車を通ったタイヤの跡が黒々と光っていた。いよいよ冬將軍の到来である。

2〜3日前からテレビの天気予報でも日曜日には雪が降るだろうと放映されていたので、それほど驚きはしなかった。

昨年の初雪が降った11月14日のことを思い出し、資料を出してみると初雪は降り出してから3日間休むことなく降り続いたため、三笠地区での降雪は75cm、積雪は56cmである。幾春別地区では同じ3日間で降雪94cm、積雪は70cmである。この記録は豪雪を予感させるものであった。

案の定、12月に入ってからは、これまでの想像を超える勢いで連日の大雪、ついにはこれまでの記録を大きく超える降雪と積雪であった。ちなみに三笠地区の降雪深は12m2cm、最大積雪は193cm、幾春別地区の降雪深は14m62cm、最大積雪は274cmであった。

さて、今年は昨年より4日遅れの初雪であったが、昨年のような豪雪にならないよう願うのは市民の率直な気持ちだと思う。昨年から今年にかけての豪雪は三笠市の歴史に残る最悪の雪害であった。屋根の雪下ろしや排雪などにお

けるけが人の発生、80棟に及ぶ倒壊家屋、部分破損の家屋はさらに多く、我が家もわずかではあるが雪による被害が出た。

前述したが昨年の11月14日に降り出した雪は、最後の降雪日まで、三笠地区では146日、降雪日が114日、率にして78.1%、幾春別地区では148日、降雪日が119日、率にして80.4%で三笠地区より幾春別地区のほうが降雪日は若干多かった。

そのため、日常の通勤・通学・通院などに必要な生活道路が閉鎖され、住民生活に甚大な被害をもたらした。特に弥生、幾春別地区の生活道路が軒並み閉鎖状態になり、北海道や自衛隊の支援とボランティアのかたがたの温かい協力による屋根の雪下ろしや道路の排雪などにより、何とか市民生活を確保することができたのは良かったが、あらためて気象状況が「異常」になっている現実を見せつけられた。

今年の冬は去年のような気象状況にならないように願うが、これだけは保障することができない。ただ、昨年の反省を踏まえ、具体的な雪害に対する迅速な対応を進めるべく、きめ細かい対応を図っており、市民の安全安心対策に即応できるように準備をしている。

さて、衆議院選挙は12月4日が告示、16日が投票である。師走の選挙は29年ぶりで、どの政党も政策を掲げて選挙戦に

臨むと思われるが、財源措置を考えずにアドバルーンを掲げているとしたら「絵に描いた餅」である。現実に東日本大震災の復興予算が何も関係のないところで使われているという現実がある。見掛けだけの政策であってはならない。今度の選挙は「決めることができる政治」を求める選挙でなければならない。国内的にも景気はドン底であり原発問題、福祉や年金問題など困難な課題をいくつも抱えている。

国際的にも、北方領土・竹島・尖閣諸島の問題が緊張した環境をつくり出し、経済成長の障害になっている現実がある。

その意味においても今回の選挙は重要だと考えるのは私一人ではないだろう。雪深い北国でこの季節での選挙は大変である。「選ぶ方」も「選ばれる方」もその辺をしっかりと認識し、「選挙に行つて良かった」と実感できることを期待したい。また、地方に対する政治の取り組みが掛け声だけで終わらないよう願うと同時に弱者に対する政治の光を期待したい。

今年1年間、市民の皆さんのご支援ご協力に心から感謝申し上げます。新しい年が市民の皆さんにとって良い年であることを願っています。大変ありがとうございました。